令和５年度　　**学校評価状況の分析・改善**　　**（１２月実施）**　　**白山市立鳥越中学校**

「よくあてはまる」で評価
（　　）内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

※　評価の観点による実現状況の達成度判定基準は，Ａ～Ｄの４段階の基準で評価したものである。
〔ａ…よくあてはまる，ｂ…あてはまる，ｃ…あてはまらない，ｄ…まったくあてはまらない〕
※　判定は，学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をＡ～Ｄの４段階の判定基準で評価したものである。また，その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

重点	経営ビジョン	具体的な取組（重点項目）	質問紙NO.	評価の観点	達成基準	4月	7月	12月（現状）	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
1　学校経営の充実	学校評価を生かした学校経営の充実	**【1．教育目標・めざす生徒像】** （豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成） ○４つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め会う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさとに誇りを持つ生徒 **【2．具体的な取組（Plan）】** ○カリマネの柱である「たくましく伝えきる力」に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	①生徒	学校は楽しい	a+b A−90% B−80% C−70%	88% B	89% B	86% B	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 「学校は楽しい」という項目では生徒、保護者いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。4月より生徒、保護者ともに1%上がっている。特に1年生において「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が4月より17%増加した。一方、「あてはまらない」と回答した生徒は7%で4人、「わからない」と回答した生徒も4%で2人である。この生徒たちがどのような場面で「楽しくない」「わからない」と感じているのか観察していく必要がある。 「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする」という生徒の項目においては4月より4%減少して81%と、目標にしていた90%に到達しなかった。「あてはまらない」と答えた生徒はおらず、11人の生徒が「わからない」と答えていた。生徒の中には、元気に学校生活を送っている生徒もおり、表面には出さないが誰もが悩みを抱えていると思って対応していく必要がある。 「先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる」の項目においては「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した生徒の割合が84%で4月より8%下がっている。保護者において4月より1%向上したが。「わからない」と回答した生徒が14%おり、目標としていた数値に達成しなかった。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みに気づいて声をかけたりするなど、いざというときに相談できる関係を教師自身が作っていくことが今後も大切である。また、生徒の情報を共通理解し、どの教職員も相談に関わることができる場の設定や相談体制の見直しを図ることが考えられる。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていくことが必要である。 **○目標・計画の再設定(Action)** 学校で大切にしてほしい楽しさとは、努力してできたことを喜んだり、仲間と力を合わせて何かできたことを楽しんだりすることであるということを再度確認する。しかし、物事に対して前向きに捉えられない生徒に対して懇談等を通して背景から原因を解明し、学校生活に充実感をもてるように仕向けていく。また、主体的に取り組む協働的な活動を通して、生徒自らが「絆」を感じ取り。紡いでいく「絆づくり」や生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す「居場所づくり」に教師は努めていく。	（前期） 「学校はたのしい」は肯定的な回答をした生徒が多いが、そこに入れていない子がいるのも事実である。ほっとする反面、そうでない子ども達をどうケアするかが大切である。最近の中学生は、集団の中にいくことに抵抗がある。集団につじつまを合わせて気を遣ったり、遣われたりして1日を過ごしていることがしんどい。Webで回答していて、誰がどう答えているかが分かるというのであれば、サインと捉えて声かけをするのが大事である。素直に「あてはまらない」と回答してもらえれば、それをサインととして受け取れる。何かが変わるのではないかと期待を込めてそれにしているのではないか。声をかけてもらえれば子どもはうれしいのではないか。見てくれているという自覚が子どもに芽生える。 手のかかる子やできる子に対してはよく声をかけるが、中間層の子ども達とはあまり話すことがないときがよくある。意識して話をしていかないといけない。 「学校は楽しい」という設問はすごく漠然としていて、子供らにとっては答えづらさがあるのではないか。中学生は深読みが入ったりする。 「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする」の設問にも答えづらさがある。そもそも相談する悩みはありません。そういう子かもしれない。 （後期） 先生がこうなって欲しいと説明しながらアンケートをとると結果も変わってくるのではないか。 「いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている」の項目では子ども達の結果が気になったが、0%で良かった。いじめはココロの一生の傷になる。	【評価を終えて】 「学校は楽しい」という項目での肯定的な回答は7月に比べて3%減少した。中でも「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が20%減少しており、1，2年生にその傾向が見られた。入学した当初に比べ、学習面や生活面で悩みも出はじめたと考えられる。今後も一人一人を丁寧に見取り、声かけをするとともに、生徒が主体的・協働的に行える取組を構築する必要がある。 反対に「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする」「先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる」の項目では肯定的な回答が5%増加した。学校生活が進むにつれ、教師への信頼関係が高まっていることは喜ばしいことである。これからも一人一人の生徒を大切にしながら、いつでも相談できる体制を整えていくとともに、校内研究で取り組んでいる「プロセスを褒め、生徒に自信を持たせる指導」を意識して取り組んでいく必要がある。 また、保護者においても「学校は、子どもの良い所や頑張ったことを認めてくれる」の項目においては肯定的な回答が7月と比べて6%増加した。「学校の様子が懇談や各種お便り、ホームページなどでよくわかる」の項目においても肯定的な回答は86%と概ね良好であった。今後も情報発信を積極的に行い、社会に開かれた教育課程の実現を図るとともに、信頼される学校づくりに取り組んでいきたい。 【求める生徒の姿】 自己肯定感、自己有用感を感じ、充実した学校生活を送る生徒 【具体的な取組】 ・「4つの生徒像」の実現に向けて、生徒の現状に応じた計画的・具体的な取組、組織としての実践。 ・教職員が共通認識・共通行動するための情報共有の場として、主任会議・職員会議の充実。 ・「開かれた学校」を目指し、保護者・地域への生徒の様子や学校方針の発信。
			❶保護者	お子さんは、学校は楽しいと思っている	a+b A−90% B−80% C−70%	90% A	91% A	87% B			
			②生徒	先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする。	a+b A−90% B−80% C−70%	85% B	81% B	86% B			
			③生徒	先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる。	a+b A−90% B−80% C−70%	92% A	84% B	89% B			
			❷保護者	学校はお子さんの良い所や頑張ったことを認めてくれる。	a+b A−90% B−80% C−70%	81% B	82% B	88% B			
			❸保護者	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	a+b A−90% B−80% C−70%	96% A	95% A	88% B			
			5教師	校務分掌や主任が適切に機能し、組織的に活動が行われている。	a+b A−90% B−80% C−70%	100% A	100% A	88% B	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 組織的な学校運営については100%であり、目標を達成できた。 【7月評価時点での成果と課題】 全員で全学年を担当しているので、学年の取組を主任会議で図ったり、報告・連絡・相談を密にしたりしていく必要がある。 **○目標・計画の再設定(Action)** 全教職員の共通理解を図り，主任を中心に組織的に取組を進めていく。これからも家庭・地域に向けた積極的な情報発信をしていく。		
			❹保護者	学校の様子が懇談や各種お便り、ホームページなどでよくわかる	a+b A−90% B−80% C−70%	82% B	84% B	85% B			
2　生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	**【１．達成された姿（ゴール）】** ・授業で自ら進んで課題に取り組んでいる生徒 ・授業で自分の考えを伝えている生徒 **【２．具体的な取組（Plan）】** ・校内研究授業の充実 ・ＧＩＧＡスクール構想の実現	⑤生徒	授業では自ら進んで課題に取り組んでいる。	aのみ A−60% B−50% C−40%	15(88) D	23(86) D	21(82) D	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 今年度も高見を目指して「よくあてはまる」のみで達成基準を設定したが、「進んで課題に取り組んでいる」の項目でも「よくあてはまる」と答えた生徒は4月から8%上がったものの23%であった。同様に「授業で自分の考えを伝えている」の項目においても21%と4月から9%上がった程度で目標を達成できなかった。「あてはまる」までを含めると概ね良好であると考える。 【7月評価時点での成果と課題】 カリマネの柱である「たくましく伝えきる力」を目指して、授業の中でも取り組んで来たことで自分の考えを伝えようとすている生徒が増えたことは成果である。しかし、自分の考えを持てているのに自信をもって表現できていないのが現状である。 **○目標・計画の再設定(Action)** 生徒達に50分後にどんなことばを言わせたいのか。書かせたいのか。ねらいとするゴールの姿にするにはどういう課題にしたらいいのか。このように教師がねらいに達成するための授業構想をしっかり持って授業を行っていく必要がある。また、生徒指導の視点から生徒達にどんな姿になっていてほしいのかを生徒と共有し、定期的に評価してあげるような関わり方をしていくことで、自信を持って自分の考えを伝えられるようにしていきたい。	（前期） 生徒はaのみで見ているのに先生はa＋bで見ている。一緒にしないといけない。先生もaだけで見ると50%である。50%なら生徒の23%はそれなりに結果がでているのかな。子ども達のA60%にするなら、先生も80%、90%にしないといけない。比較対象の達成基準を音字にしておかないとズレが大きくなる。 （後期） 子ども達はしていないという判断なので、指導が生きているのかいなか。また、先生たちの指導が実は実は自分の主観的にはaだけど、客観的に見たらaじゃないよというのがあるのかもしれない。 あまり高いレベルでアンケートをとると何が悪いのか分からなくなる。ちょっと易しめにしてみてはどうか。	【評価を終えて】 「授業では自ら進んで課題に取り組んでいる」という項目では「よくあてはまる」が7月に比べて2%減少した。「授業で自分の考えを伝えている」という項目においても同様に7%減少した。どちらの項目において「あてはまる」まで見ても減少している。教職員に関しては「あてはまる」まで見ると100%であるが、「よくあてはまる」のみで見たら43%である。生徒たちが自信を持って「よくあてはまる」と回答できるようにするためにも、教師も日頃から研究主題を意識し、生徒主体の授業づくりを心掛けていく必要がある。 【求める生徒の姿】 ・授業で自ら進んで課題に取り組んでいる生徒 ・授業で自分の考えを伝えている生徒 【具体的な取組】 ・様々な考え方が期待できる学習課題や日常生活と関連がある学習課題など、学習課題の設定 ・自分の考えや思いを話す場の設定
			１０教師	授業では自ら進んで課題に取り組むよう指導している。	a+b A−90% B−85% C−80%	100% A	100% A	100(43) A			
			⑦生徒	授業で自分の考えを伝えている。	aのみ A−60% B−50% C−40%	12(77) D	21(84) D	14(77) D			
			１１教師	研究主題に向けて重点を取り入れた授業づくりをしている。	a+b A−90% B−85% C−80%	89% B	100% A	100(43) A			

2 生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【１．達成された姿（ゴール）】 ・家で勉強している生徒 【２．具体的な取組（Plan）】 ・ガリガリノート（家庭学習ノート）の書き方の指導，展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム（全校生徒で学習する時間）を実施 ・テスト前にガリ勉タイム（自主学習時間）の確保	⑧生徒	学んだことをふり返ったり、次の授業の見通した勉強を家でしている。	aのみ A−60% B−50% C−40%	12(77) D	16(75) D	11(69) D	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は75%だった。また、「よくあてはまる」と答えた生徒も16%であり、4月から4%の増加にとどまり、目標には到達しなかった。 【7月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質は全体的に高まっていることが見てとれる。ただ、教師の取組が100%なのに対して生徒、保護者の家庭学習の取組への評価が低い所が課題であり、原因を分析し対策を講じる必要がある。。 ○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。また、家庭学習につながる授業づくりも大切になってくる。	（前期） 子供らに将来のビジョンというか目標を立ててあげて、未来に希望を持ってそこに向かっていくモチベーションを灯してあげる。小学校でも将来なりたいもがないと答える児童が約半数いる。今の子どもは現実を見て無理だと勝手に思ってしまっている。それではモチベーションがあがらない。なんで勉強したいといけないのかというふうになる。最近の子はポジティブを恥ずかしがる。子ども自身が自己分析して、設問に対して真剣に向き合っていそう。 （後期） できる子と比べたら、自分の位置はこんなもんかと思っているのではないか。基準を先生や子ども達で共有すればよい。	【評価を終えて】 家庭学習については、「よくあてはまる」が5%減少し、目標を達成できなかった。また、「あてはまる」まで見ても6%減少した結果であった。保護者においても7月と同様で肯定的な回答は70%にとどまった。一方、教職員は100%である。しかし、生徒と同じ「よくあてはまる」のみを見ると14%である。教師側の取組意識に課題があると思われる。学んだことをふり返ったり、次の授業を見通した勉強を自分で行うことが、様々な課題解決に必要な力であり、学びに向かう人間力に繋がるものと考える。今後は家庭学習に自主的に取り組めるように、ガリガリノートの段位認定を継続するのみではなく、教師側が学習内容への価値づけや家庭学習に繋がる授業を日々心掛けていく必要がある。 【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒 【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出す取組
			❼保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A−85% B−75% C−65%	75% B	71% C	70% C			
			12教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A−90% B−80% C−70%	89% B	100% A	100(14) A			
3 豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【１．達成された姿（ゴール）】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒 【２．具体的な取組み（Plan）】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもんの羽」（友達の良い行いを伝え合うカード）の取組 ・各学級で行事の後などに，感謝の気持や良い行動を伝え合う	⑪生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aのみ A−65% B−50% C−35%	43(96) C	45(99) C	40(94) C	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 生徒，保護者，教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており，家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては，「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から2%増加した。。「友達に対して思いやりの心で行動している」も4月から2%増加した。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもんの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。 **○目標・計画の再設定(Action)** 「とりごえもんの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことについて書いたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また，とりごえもんの羽以外に，各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	（前期） 今の子は失敗したくないという感じがする。失敗して当然であり、同じ過ちを繰り返さないようにすればいい。失敗して覚えていく人生である。それで自信がつけばいい。違ったら恥ずかしいから手を挙げない。消極的になる。 失敗・失敗じゃない基準を自分の中に持っている。周りは全然失敗じゃないよと思っていても、自分の中で失敗なんですという子がいて難しい。心が繊細になってきている子が増えた。 （後期） 道徳なんかは先生方が正直に書いていてcなのに、子ども達はaとかbなので、これは地域の力なのかという判断になる。「夢や目標を持っている」という項目はもっと高くてもいいのではないか。子ども達は目標は仕事だと思っている。大きな家に住みたいも目標だよと教えてあげるのもいい。鳥中の子が鳥小に行って夢を語ってくるというのもいいのではないか。機会があれば市議会を傍聴できればよい。どんなことを話しているのか見てくればいい。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目では「よくあてはまる」が7月より5%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目においても91%と7月よりも減少している。教職員の取組は100%であったが、生徒と同じように「よくあてはまる」のみを見れば38%である。道徳教育についても75%である。生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもんの羽」は定着している。今後はもっと他学年に目を向けさせたり、クラス全員の良さを見つけるといった生徒の意識を変えてあげられるような活動を定期的に取り入れていく。そして、道徳教育にも力を入れ、他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。 【求める生徒の姿】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒 【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組
			15教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	a+b A−90% B−80% C−70%	90% A	100% A	100(38) A			
			⑫生徒	友達に対して，思いやりの心で行動している。	a+b A−95% B−85% C−75%	93% B	95% A	91% B			
			❿保護者	お子さんは，友達に対して，思いやりの心で行動している。	a+b A−95% B−85% C−75%	94% B	98% A	93% B			
			16教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育つよう指導している。	a+b A−95% B−85% C−75%	80% C	77% C	75% C			
	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【１．達成された姿（ゴール）】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【２．具体的な取組（Plan）】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑬生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	a+b A−95% B−85% C−75%	97% A	98% A	92% B	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については4月の調査から「よくあてはまる」のみが5%増加した結果となった。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒会でボランティアを募ってのあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの取組が成果に繋がっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると97%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合がなかなか上がっていかないのは、自律清掃の取組について趣旨が理解されていないのではないだろうか？自律清掃をすることで自分にどのような良い影響があるのかを押さえていく必要がある。 **○目標・計画の再設定(Action)** 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等，気付きに関する取組等を行い，清掃の質をさらに高めていきたい。	（前期） 小学校では挨拶の項目を子ども、保護者、教師で比べると極端に違っている。子どもや教師はよくしていると答えるが、保護者はしていないと答える。学校の中では1年生のときから挨拶の指導をしており、学校生活の中では普通になっている。しかし、家に帰ると挨拶しないと親はみているのかな。そのギャップをどう埋めるかが課題である。親御さんが期待したタイミングで挨拶をしていないのかもしれない。大人がしないのに、子どもにだけ求めるのもどうかと思う。子ども達が挨拶をしたら返してあげないといけない。毎朝、中学生が自転車で登校してくるが、「おはよう」と声をかけると、返してくれている。 （後期） 挨拶は前よりも良くなった。中学生は知らない人になかなか挨拶をしないのに、鳥中の生徒はできる。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目については7月から6%減少しており、「よくあてはまる」のみを見ても9%減少した。同様に保護者においても9%減少した結果となった。一方、教師は100%である。ただし、「よくあてあまる」のみを見れば38%であり、ここに課題があると考える。教師が生徒たちにとっての身近な手本であると思われるので、教師から積極的に挨拶し関わっていきたい。 自律清掃については7月と比べたら15%減少し、「あてはまる」までを見ても8%の減少であった。2年生において「あてはまらない」と回答した生徒が増加した傾向にあった。教師も88%であり、「よくあてはまる」のみだと25%である。生徒、教師ともに自律清掃を行う意義が薄れかけてきていると考えられるので、再度確認するとともに、良い取組を価値づけして意識を高めていきたい。 【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作で挨拶している生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心とした挨拶運動の実施 ・生徒自身で自律清掃の意義について考える機会の設定 ・生徒のやる気を引き出す教師のサポートの推進
			⑪保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A−90% B−80% C−70%	90% A	95% A	86% B			
			18教師	進んであいさつができるように指導している。	a+b A−90% B−80% C−70%	100% A	100% A	100% A			
			⑮生徒	自律清掃を意識して清掃に取り組んでいる。	aのみ A−65% B−50% C−35%	38(98) C	43(97) C	28(89) C			
			20教師	自律清掃を意識した指導をしている。	a+b A−90% B−80% C−70%	100% A	100% A	88(25) B			
	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【１．達成された姿（ゴール）】 ・地域に誇りを持つ生徒 【２．具体的な取組み（Plan）】 ○生徒に地域の良さを知らせ，地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り，ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫（地域教材の活用，地域GTの活用） ・運動会，文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑯生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aのみ A−70% B−60% C−50%	28(90) D	27(90) D	26(84) D	**○7月評価(Check)** 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は1%下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は80%と低かったが、4月から5%増加した。 【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり，家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように，学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。 **○目標・計画の再設定(Action)** 生徒の愛郷心をさらに高められるよう，地域の資源や人材を学校行事に活用する。また，活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	（前期） 人には得意、不得意があり、同じことを勉強させても分かる子と分からない子がいる。いろんな経験をさせて人間性を育て、地元に残る子を育ててほしい。昔からこの地域は催しを大事にし、そこに人が集まってコミュニケーションをとっていた。 （後期） 自分の住んでいる地区の自慢話とかを発表する授業があればいい。 子どもに聞けばいいのではないか。鳥越のことにあまり興味がないといったらそこに力をいれればいい。鳥越好きだけど、良いとこ知らないといえば、その足りない部分を大人が補ってやる。1年かけて「鳥越検定」とかするのもいいのではないか。	【評価を終えて】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」「地域に貢献したいと考えている」の項目では、7月と比べてあまり変わらず、教師側の取組がそのまま反映されたような結果であった。今後も総合的な学習の時間において地域の良さや課題について考える取組を行っていきたい。また、地域人材を積極的に活用し、地域の良さや地域への貢献についてお話をしていただく機会を設けていきたい。 【求める生徒の姿】 ・地域に誇りを持つ生徒 【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進
			21教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	a+b A−90% B−80% C−70%	100% A	100% A	88(25) B			
			17生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A−90% B−80% C−70%	75% C	80% B	79% C			
			22教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A−90% B−80% C−70%	70% C	100% A	88% B			